



第5期管理職養成学校ニュース

連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町2-5-6-902 2026年1月12日発行

電話 06-6772-1360 Fax 06-6772-1376 e-mail jimukyoku1@f-zenkoku.net

Vol. 5



～第4講座 ～財務分析～

管理職養成学校も折り返しを過ぎ、いよいよ佳境に入ってきました。第4講座では自法人・自事業所の財務分析を行い、現状を理解し将来構想（第5講座）へつなげていくことになります。

普段、財務に携わっていない受講生も多く苦手意識の強い講座となります。管理職を担っていく上では避けては通れない課題です。

【第4講座のねらい】

- ①現場の実践と財務の数値が結びつけられるきっかけにする。
- ②自事業所の財務状況と経営課題を年間・中長期・月次管理の観点でつかめるようになる。
- ③自法人の理念や管理者の意思を反映した事業計画と財務管理を結び付けられるようになる。

財務を“語れる管理職”へ — 自事業所を見つめ直す3分間プレゼン

第4講座は準備期間も長く、会計講座（基礎編・応用編）の受講、動画視聴、財務分析ワークシート、SWOT分析、BSC（バランススコアカード）と第2講座終了後から立て続けに課題が出されます。第3講座の課題と並行して取り組むわけですから、時間管理が大事になってきます。管理職に必要なマネジメント力も鍛えられる、素晴らしい講座なのです。



今回のプレゼンは「自事業所の財務分析と事業計画」がテーマです。設定は職員会議で財務分析を踏まえた上で財務計画を話し、ともにすすめる職員の合意形成を図ることです。どれだけ丁寧にわかりやすく簡潔にまとめるか、がポイントになります。3分の短い時間で伝えるために、それぞれがグラフや表・写真・イラストなどを駆使したパワポを作成して臨みます。事前の自主ゼミでの練習の成果もあり、どの報告もわかりやすく伝わるものでした。

「単に資金収支差額が黒字だからよかったね」ということではなく、その中身の分析をし、現預金・減価償却費・積立額などから自事業所の経営状況を把握し、改善のために何をすべきかを具体的に報告していました。受講生自身も「実はうちの事業所の状況はこうだったんだ」と改めての気づきが多くあったと思います。

事務局の舞台裏

社会福祉法人名古屋キリスト教社会館 伊藤 輝人

私は、同友会時代の第7期管理職養成学校を受講しました。そのご縁で、現在は全国会議として運営されている学校の事務局に関わっています。2019年度に7期で出会った仲間とは今も年に一度集い、全国会議の研修や交流会でも再会を重ねています。職場や立場が変わっても、率直に想いや課題を語り合える関係は、私にとってかけがえのない財産です。



現在は事務局という立場で、受講生や仲間から多くの学びと刺激を受け、それを日々の施設運営や仕事づくりに活かしています。学びと気づき、そしてつながりを得られるこの管理職養成学校に関わっていることを嬉しく思っています。

伝えることで見えてくる学び

プレゼン発表を終え、少しほっとした表情を見せる受講生の皆さん。午後の最初は、各ゼミに分かれてプレゼンの振り返りを行いました。「財務を三つの財布に表現した資料が分かりやすかった」「聞いている職員さんが一緒に頑張ろうと思える話だった」など、発表内容を振り返りながら、伝え方や構成だけでなく、どう伝わることが大切なのかについて意見が交わされました。

その後は、講師である山本先生による講評とまとめの講義が行われ、「誰に、何を伝えたいのかを明確にすること」「比較することで初めて強みや弱みが見えてくること」など、プレゼンの基本となる視点が改めて示されました。



数字から経営を読み解く視点



講義では、SWOT分析およびBSC（バランス・スコアカード）の作成ポイントについて、具体例を交えながら説明が行われました。「強みと弱みは紙一重であること」「人をどう捉えるかが法人の姿勢を表すこと」など、自事業所の分析を見直すための多くの視点が示されました。

後半は、ある社会福祉法人が運営するA保育園の決算書を題材に、数値から課題を読み取り、経営改善の方向性を検討する総合問題に取り組みました。数字と現場の出来事を結びつけて考えることで、日常的に財務に関わらない職員にとっても、経営を見る視点が深まる実践的な学びの時間となりました。

次回：第5講座 卒業発表・中長期事業計画

2026年1月29日(木)

これまでの学びを土台に、
自事業所のプロジェクト
チームで描く中長期計画
をプレゼンします。

チーム わくわく
Dream☆Diary

